

PTAの軌跡

能代高等学校PTA事業計画

(平成27年度)

*4月

四会(PTA・体育後援会・文化後援会・教育振興会)入会式
四会役員会・会計監査
四会総会・各学年PTA
PTA進路講演会

*5月

PTA地区連絡員会議
秋田県高等学校PTA連合会定時総会

*6月

能代地区高等学校PTA連絡協議会
十里強歩PTA役員・地区代表者合同会議

*7月

能高祭
東北地区高P連大会

*8月

全国高P連大会

*9月

十里強歩
各学年PTA(11月)
秋田県高P連全県母親会員交流会
PTA会報発行
秋田県高P連県北地区交流会

*10月

創立九十周年記念式典
芸術教室
登校時一声・マナーアップ運動

*11月

秋田県高P連正副会長会議

*12月

四会役員会・会計監査

*1月

PTA会報発行
卒業式
各学年部 学年共通費会計監査

能代高校PTA活動の十年

この十年の活動で特筆すべきことは、「地区PTA活動の改善」と「部活動支援の充実」の二つがあげられよう。

地区PTAに関しては、平成20年度をもって各中学校区で開催されていた地区PTAが、本校を会場とする地区別分科会にかわった。この形での地区PTAは平成22年度まで続けられ、翌年度からは「学年PTA役員・地区代表者合同会議」「十里強歩専門代表者・PTA役員打ち合わせ」等の名称となり、十里強歩を中心とした会議となり現在に至っている。

部活動支援に関しては、この十年の各部の活躍がすべてを物語る。

体育局では、十年間で4度の全国大会出場を果たした軟式野球部をはじめ、インターハイ出場常連である体操部、柔道部、空手道部など活躍が目覚ましい。さらに、この十年は特に文化局の上位大会出場が数多く、無線部が3年連続世界大会出場を決めたほか、弁論部、囲碁・将棋部、放送部、美術部、文芸部などが全国大会に出場している。

このように上位大会への出場が相次いだこの十年は、費用面はもちろん練習環境・応援体制等も体育後援会・文化後援会の支援のもと、全国、そして世界へ能代高校の名を知

らしめることができた時期であった。

各校・上部団体との連携の十年

秋田県高等学校PTA連合会が、その事業を円滑に行うために、県内十地区に地区協議会を設置しており、本校PTAは能代市内5校で能代地区高等学校PTA連絡協議会を構成している。

この十年は県連合会や能代地区連絡協議会との連携のもと、積極的な活動を推し進めてきた期間であった。

第56回全国高等学校PTA連合会大会が、平成18年秋田県を会場にして開催された。メイン会場は秋田市であるものの、三つの特別分科会は能代市・横手市・男鹿市に分散され、能代市では「高校生とその夢を語る」というテーマによる第二特別分科会が行われた。

本校PTAが中心となり地区連絡協議会の協力を得、外国での生活経験を持つ2名の高校生を中心にパネルディスカッションを行った。国際化社会に生きる高校生が追い求める夢を全国から参加した約400名の前で堂々と語り、成功裏に終了した。

また、登校時一声・マナーアップ運動は、秋田県高等学校PTA連合会が青少年の健全育成に関する事業として実施している安全教育のひとつである。能代地区高等学校PTA

連絡協議会ではこの事業を受け入れ、各校分担して市内各駅や正門前で登校する生徒に声かけをしながら交通安全指導を行っている。この十年間で横断幕を作成・使用したり、参加人数が大幅に増えるなど、充実した活動がすすめられている。本校PTAは東能代駅前と校門前を中心にこの運動に積極的に参加した。

すごいぞ！松陵健児

平成19年度会長

鍋谷 雅彦

我が能代高校「創立九十周年」心より御祝い申し上げます。卒業式で「教えられた事を覚えるのは比較的簡単ですが、自分で学んでいくためには自分で何が必要かを見極めなければならぬ。自分から学ぶ積極的な姿勢を持つて、それぞれの道を歩んで行ってく下さい」と「教えられる事より自分で学んで行く事の大切さ」を申し上げ、第78期卒業生を送り出してから、早7年、月日の経つ早さを感じています。

子供が生まれ、幼稚園で父の会の役員をした関係上、小学校、中学校でも役員をやり、

子供達のために学校と父母の橋わたしをしてきました。高校でも何かしらの協力をしなければ、とは思っていましたが、最終的にPTA会長を任されるとは思いもよりませんでした。能力のある子供達をどのような形で、「バックアップ」して行こうかと、いろいろな行事の前に会議を持ちました。また親どうしの密な連絡のため、その後の懇親会にも力を入れ、大変充実した楽しいPTA活動だったと記憶しています。PTA、体育後援会、文化後援会、教育振興会、の入会式にはまり四会総会、能代山本地区高等学校連絡協議会、地区PTA、能高祭、十里競歩、研修旅行、などたくさん事業がありました。（先生と地区PTA役員の負担が、大変大きかったとは思いますが、地区PTAがこの年をもって中止になった事は、少々残念に思っております。）

さて、ゆとり教育が見直されようと国で議論が続いていたところで、自分の不真面目な高校時代の事を棚に上げて話せば、子供達のガツガツしたやる気があまり感じられなく、ゆとり教育の弊害が能代高校でも出ているのかなと思いました。しかし、まったくの誤りで、運動部、文化部の、県や全国を又にかけた活躍と輝かしい成績、また学業では、国立大学に100名を超える合格者を輩出する

という、まさに校是「文武両道」を実践している生徒たちでした。

これからも、この様にすばらしい可能性を秘めた「松陵健児」たちの活躍を期待しています。創立九十周年、誠におめでとうございます。

社会の変化とともに

平成20年度PTA会長

加賀 義章

能代高等学校創立九十周年を心よりお祝い申し上げます。

本校ではこの年、「地区PTA改革」が試行されました。総務部から「生徒数減少の中、PTA予算の中で地区PTA関連予算（会場費、役員・教員の旅費）の比重が大きく、参加役員数の削減をして欲しい」と提案されたのをきっかけに、改めてより良き地区PTAのあり方を考えることになりました。以前からの論点として①交通事情の不便さにより地元開催を目的としていた地区PTAであるが、社会環境の変化とともに当初の意義を失っている。②開催に際して運営にあたる地区役員にご苦勞をかけている。③担任など

お目当ての先生が必ずしも出席できるとは限らず、また懇親会には出席しなかったり、車で移動する都合上アルコールを飲まない先生も多いが、先生を交えて飲酒しながらの懇親会は是非やって欲しい。④開催期間中に個別面談が土日を含めて実施されており、地区でPTAを行わなくても対応できる。⑤この期間中に第1回考査、県総体、校内体育大会、能高祭などが集中しており先生の負担が大きい、などがあげられていました。全校の保護者へのアンケート調査結果では「開催の仕方を変えた方がよい」とする意見が6割、7割と多かったため、三役役員会や地区代表者会議を開き検討しました。その結果、本年度は今までのような地区でのPTAは実施せず、学校での全体会・各学年PTAの後に引き続き地区別分科会を組み込み、その後平安閣で全地区・全学年の保護者が一堂に会して、地区別の着席で先生方と共に懇親会を行う形で試行的に行うことになりました。全体会二百五十余名、学年PTA三百余名、地区PTA214名、懇親会108名（教職員29、保護者99）の出席数でした。参加者増員を含め今後の改善すべき点を探り、工夫を重ねていく必要があると思います。

「すべては生徒の幸せのために」というスローガンのもと、Will Projectの実践を通じ

て、明確な目的意識を育成し、学びの意識を高め、「夢と志を育てる」本校の特色ある取り組みや、深夜にもかかわらず伝統の学校行事十里強歩大会をサポートしてくれる保護者の方々の姿に接し、改めて本校のすばらしさを実感しました。

最後に、創立九十周年記念事業にご尽力いただいたすべての皆様に深く感謝し、母校の限らない発展を心よりお祈りいたします。

PTA活動の思い出

平成21、22年度PTA会長

浜松 幹生

能代高校創立九十周年おめでとうございます。私は平成21・22年度にPTA会長を務めさせていただきました。PTA会員の方々は、多大なご協力をいただき、改めてこの場をお借りして、お礼申し上げます。PTAの軌跡と呼べる程大げさな事ではないのですが、思い出に残る事を幾つか書かせていただきましたと思います。

伝統ある能代高校では、PTA活動においても諸先輩方が大きな足跡を残されており、地区PTA等活動基盤が充実しており、非常

に心強く思ったことを、覚えております。PTA総会に始まり、郡市PTA総会・全県総会など様々な活動に、文化後援会長・体育後援会長はじめ多数の会員の方々と、参加させていただきました。会員の意識が高く、参加者数の確保に苦勞はいたしませんでした。

校内活動で印象に残っている事の一つに、十里強歩への皆様方のご協力と、生徒達に大きな事故・怪我もなく2年間無事行事を完了できた事があります。生徒数・保護者数の減少や、保護者の勤務形態の変化などにより、各関門を維持する保護者の確保が年々困難になって来ている現状が発生しておりました。また予算規模の縮小の必要性も指摘されておりました。限られた予算、人数の中でどの様に行えばよいか、先生方・役員・会員で何度か協議を行い、小関門での捕食を減らし、ゴール地点で軽食を準備する事にいたしました。特にゴール地点での軽食はPTA会員で担当する事となり、多数の方に担当内容によっては数日前からご協力いただきました。ゴール後生徒達がおいしそうにおにぎりやうどんを食べていた顔が思い出されます。

平成22年度軟式野球部全国優勝も忘れられない思い出です。私は準決勝から明石球場の応援に参加いたしました。10月とは思えないほど暑い日が続いておりました。関西の強豪

校相手に同点逆転の繰り返しの猛烈な試合になり、声が枯れる程応援いたしました。準決勝再試合により、2日の予定が3日に伸びましたが、全国優勝できた事は我が校の歴史に大きな足跡を残せたと思います。またその場に立ち会えた事は、私にとっても貴重な思い出となっております。

能代市を含め秋田県内の高校は、今後とも統廃合が続くと思います。また生徒達を取り巻く環境も、社会環境・技術環境等の変化によってより複雑になる事と思います。学校と家庭を結ぶPTA活動は今後益々重要になります。県北の先進校として能代高校90年の伝統に基づき、次なる百周年、更にその先の発展を確信しております。

創立九十周年に寄せて

―明石全国大会のことなど―

平成23年度PTA会長

三浦 正 明

創立九十周年を心よりお祝い申しあげます。

子供が能代高等学校を卒業してからはや3年、少しずつPTA時代の記憶が薄れてきた

ところでした。文章に思い違いなどがあるかも知れません。

能代高等学校の永い歩みの中で、卒業生として親子でこの周年の場面に立ち会えることを、本当にうれしく思います。同じ時代を過ごした校長先生をはじめ教職員の皆さん、PTAの皆さんその節はお世話になりました。

時計のネジを巻き戻してみると、私がPTA会長になったのは平成23年4月。

それより一月前の3月11日東日本大震災が発生、東北は地震と津波による甚大な被害を受け、それぞれが忘れられない体験をしました。混乱と不安を抱えたままの入学式、総会でありました。すぐに秋田県高等学校PTA連合会からの要請で、震災義援金の協力をし、本校では災害対策として、生徒との連絡にメールアドレスの登録が検討されました。しかし、つらい経験だけの年ではありません。この年、校長室を訪れたお客様、保護者、同窓会の方々は記憶があると思います。

軟式野球部が成し遂げた全国大会の大優勝旗が、北東北大会の優勝旗と共にデーンと校長室に鎮座しておりました。私は前年、柄にもなく体育後援会長を引き受けていたので、決勝の明石球場の場面に立ち会っておりました。――優勝が決まった瞬間、ケイタイメールでお世話になった方々に勝利の発信。すぐ

に返信があつて「球場で一緒に校歌を歌いたいから送信のままに」という熱烈な同窓生もいて、困りました。能代市長にも応援に来ていただき、良い場面で勝利するという忘れられない感動を体験しました。

平成23年も軟式野球部は連覇という目標を掲げ、秋田県大会で優勝。震災後の東北に元氣を取り戻す力になりたいという意味で、東北代表として、全国大会に臨みました。

よい結果は他の部活動にもよい影響を与えたと思います。この年、本校の体操部、空手道部、無線部、囲碁・将棋部、美術部、放送部が全国大会に出場、活躍しました。

さて、8月25日、全国大会の1回戦は、初芝富田林高校との対戦です。

試合は明石市の西の高砂球場、私は地理に不案内で高砂駅でタクシーを待ちました。客が行列になった時、「相乗りしてもらえませんか」と関西弁。それは敵方・富田林高校の保護者です。

まさに「呉越同舟」でした。「タクシー代は私が払います、試合のツキは私の方で頂きますから」と冗談をいって別れ、果たせるかな、試合は6―2で初戦を勝利しました。

本校応援団と保護者そしてありがたいことに、地元県人会の方々も一緒に喜び合いました。

2回戦はよく健闘したものの、作新学院に0―1で惜しくも勝利できませんでした。

しかし、それでも私たちに明石全国大会までの大きな夢を見せてくれました。

今後とも能代高等学校が校訓「至誠力行」のもと、新しい後輩たちを教え導き育んでいただきますよう祈念し、さらなる発展をご期待申しあげます。

人との関わりを大切に

平成24年度PTA会長

佐藤 幸 樹

秋田県立能代高等学校が記念すべき創立九十周年を迎えるに当たり、心よりご祝福を申し上げます。

平成22年、長男が入学したのをきっかけに能代高校でのPTA活動がスタートしたのですが、私には子供が4人おりましたのでこの年、長女は別の高校、次男が中学生、次女が小学生と当時は四つの学校のPTAに携わるという状況でした。

さすがに4校掛け持ちは不可能なので、妻が高校2校担当、私は小中学校担当ということで役割を振り分けていました。

ところが平成23年、突然大先輩から能代高校の役員への要請があり、断れず、そのまま文後会長へ。その翌年、平成24年度PTA会長という大役を仰せつかる事となりました。

その年、春の叙勲で田中仁純教育振興会会長さんが「旭日双光章」を、そしてまた秋には佐々木正一校長先生が「教育者文部科学大臣表彰」を受章されており、本校の先輩でもあるお二方が揃って受賞されるというとても名誉な年でもありました。

能代高校の伝統行事といえば真夜中の暗闇を夜通し40キロも走る「十里強歩」。

毎年各関門の設営などにPTAが協力し、生徒たちが安全安心に学校まで帰れる様に見守っていますが、この年「ナニコレ珍百景」というテレビ朝日の番組で「十里強歩」が取り上げられ、前日からテレビカメラが学校に入り、スタート直前からゴールまでを独特のカメラアングルで撮影し、VTRに収めていたのです。

結局放送では取り上げてもらえずお蔵入りとなってしまう映像が残念でなりません。せめて撮影したビデオデータだけは頂きたかったと思います。

何年後になっても構いませんのでテレビ朝日に交渉して、その様子を学校の記念として残して欲しいと思っています所です。

さてPTA活動の方ですが地区PTAが無くなって3年目を迎えたこの年。

やはり保護者同士そして学年部の先生方との意見交換の場の必要性を考え、各学年部で「顔合わせ会」の企画を提案。保護者と学年部の先生方が膝を交えて有意義に懇談出来る場を提供する事が出来たのではないかと思います。

当たり前の話ですがPTA活動は一人では出来ません。先生皆さま方はもちろん、保護者の皆さまのご理解と協力が無ければ成り立ちません。

今振り返るとそんな協力的な保護者の方々が本場にたくさん居て、とても楽しいPTA活動をさせていただいたなあと当時の皆さまに心から感謝申し上げます。

今の時代はSNSやメール、インターネットなどの普及に伴い、会わなくても会話が成立したり、通信販売で買い物が済んでしまうなど、人と直接関わらなくても生活が出来る世の中になっています。

しかし私たち人間が生活をする上で本当に大切な事は人との関わりだと思えます。

便利になりすぎて人として大切な事を見失わないように願うばかりです。

「真心を持って人に接し力を尽くして努力する」

校訓「至誠力行」のもと、能代高校が来るべき百周年へ向け、今後ますます飛躍と発展を遂げられます事を心よりご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

伝統の十里強歩とPTA

平成25年度PTA会長

松橋 優悦

秋田県立能代高等学校が創立九十周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

私は、自分が通学した3年間、そして3人の子が通った9年間、合計12年間、高埜の学び舎でお世話になりました。

平成25年度は、4回目にして保護者としても卒業という特別思い出深い卒業式に出席することになりました。この間、多くの先生方、保護者の皆様のご指導ご協力により、どうかPTA会長の任を果たすことができました。

本校PTAの大きな事業の一つとして伝統行事である十里強歩への協力があります。25年度は残念ながら荒天のため中止となりましたが、前年の24年度には体育後援会

長として女子スターターを務めさせていただくとともに、コースを一巡して応援するという機会に恵まれました。この年は、「ナニコレ珍百景」というテレビ番組の収録も行われ、能代高校ここにありと全国に紹介されることを期待しておりましたが、その後も放送されず、お蔵入りになったようです。こうしたエピソードはさて置き、深夜の行事にも関わらず沿道や関門には多くの保護者の皆さんが生徒等の世話や安全確保のために駆け付けてくださり、脈々と引き継がれてきた伝統の大きさとPTAの結束を目の当たりにすることになりました。

生徒の精神鍛錬となるこの伝統行事を継承していくためには、関係各位の理解と協力が必要です。

十里強歩を経験した卒業生が次は保護者や教職員として関わり、母校の伝統を支えて欲しいと思います。

創立百周年に向けて、母校能代高等学校のますますの発展と、生徒諸君並びに関係する皆様のご活躍を心からお祈り致します。